



観光施設メディアラボ

公益社団法人国際観光施設協会編



公益社団法人国際観光施設協会 副会長
ホテルズ実行委員会 委員長
株式会社スターツ総合研究所 理事

浅野 一行

国際ホテル・レストラン・ショー 2024 では協会の活動コンセプトである、3つのホスピタリティを切り口に日本を伝えるというテーマで一年の活動を展示紹介しました。人と人のホスピタリティは皆が知っている概念ですが、そのほかに人との、社会、自然も大切なことだと考えられています。観光施設、観光交流空

間、観光情報空間を対象に調査、研究、啓蒙活動をしている当協会は、人との、人と社会、人と自然の3つのホスピタリティをコンセプトとして活動を行っています。

さて、対象にホスピタリティの精神を発揮すればホスピタリティを返してくれます。

誰かにホスピタリティの精神をもって接すれば、かれもあなたにホスピタリティのところで答えてくれるでしょう。

物へのホスピタリティ

「もの」にホスピタリティの精神で接すれば、「もの」があなたに満ち足りたところのみならず様々な豊かさを返してくれます。

小倉袴の生地の素晴らしさに魅了された作家が、独学で材料調達から織り上げ技術まで調査研究し再生することに成功しました。生地に愛

情を込めて作品を展開することで、リッツ・カールトンホテルの家具に採用されることになりました。魅了された生地にあふれんばかりのホスピタリティを注いだことが、インテリアという新しいビジネスを返してくれたのです。

社会へのホスピタリティ

社会にホスピタリティの精神で参加すれば、社会はあなたに快適な生活を返してくれます。

社会から無駄なエネルギーをなくす「エコ・小活動」を行えば、経済効果が上がりバランスの取れた美しい社会が実現します。エネルギーを見える化して無駄の削減を図った旅館では、経費節減とともに二酸化炭素削減という SDG's にも貢献することになり、意識の高い先進国インバウンドの増加に繋がります。エネルギーにホスピタリティを注げば、経費削減と収入増加という経済的メリットを返してくれるのです。

自然へのホスピタリティ

自然にホスピタリティの精神で接すれば、自然はあなたに持続可能な環境を返してくれます。

森に手を入れて整備すれば、循環再生型の経済が帰ってきます。

林業の廃れた日本の森は、もはや70年生の老木の森となり二酸化炭素も十分に吸収なくなっています。木材の高付加価値活用を行い林業を再生して森を手入れすれば、60年サイクルの循環再生型経済が復活しま

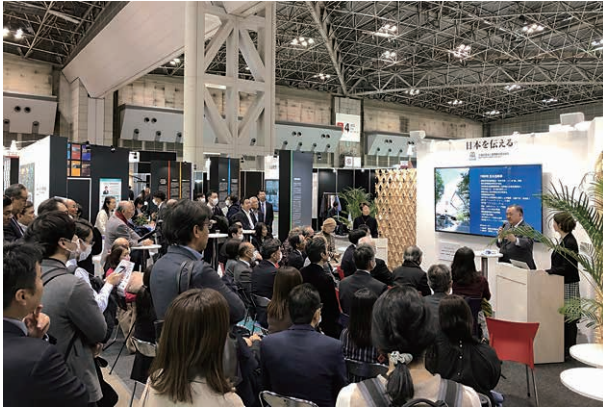


協会ブースの概要を伝える一枚絵

〈国際ホテル・レストラン・ショー出展報告〉 ホスピタリティのくに 日本を伝える

公益社団法人国際観光施設協会 副会長 ホテルス実行委員会 委員長
株式会社スターズ総合研究所 理事

浅野 一行



センタープラザセミナー



70周年記念事業報告展示

す。国土の70%が森である日本では、全国にベーシックな経済が復活します。森にホスピタリティを注げば、循環再生による地方創生という大きな果実を返してくれるのです。

ホスピタリティを伝える

もの、社会、自然へのホスピタリティの精神を養って考えることを習慣にすれば、利他のところが根付きます。ものがあふれ購買意欲を刺激する付加価値の追求が簡単ではなくなった現在、利己のところで発想するビジネスから利他の心で発想するビジネスへと転換するタイミングなのではないかと思います。

人間中心の利己の世界から利他の

世界を垣間見れば持続可能な世界が見えてきます。

出展概要

昨年は5月にコロナの感染症の法律上の位置づけが引き下げられたことを皮切りに、長いこと失われていた観光需要が少しずつ回復し、インバウンドも10月にはコロナ前の2019年同月比100%を超えました。一方、人手不足、地域格差やオーバーツーリズムなど、新たな課題も浮き彫りになっています。そんな新たな局面を迎え、今年のホテルスショーは、観光・宿泊業界の、今後の飛躍的な発展を期待するなかでの開催となりました。結果、4日間の来場者数は5万人を超え、過去最高を記録したコロナ前のホテルスジャパン2019の75%まで回復しています。

さて、今年の協会ブースは、総合テーマを昨年に引き続き、「ホスピタリティのくに日本を伝える」としました。9つの展示チームが4つのモニターをシェアして、動画による展示とセンタープラザでのセミナー

を行いました。

安藤・内田両委員の提案による開いて立てかけた「本」に見立てたブースデザインは、展示壁を確保しつつ、交流空間としての溜まりと開放感が両立できていたと好評でした。また、ブースの位置をホスピタリティデザインセミナー会場の手前に移動したことで、出展の3本柱である協会ブースとデザインセミナーと観光施設ライブラリーを、一体感をもって来場者にアピールすることができました。

協会ブースの一角では、昨年行われた70周年記念事業の報告展示も行いました。1年にわたったイベントすべてを同時に一覧すると、改めて充実した70周年であったことが思い返されました。

そして今回は、会員間の交流の場「サロン」が、(株)フジマックのご協力により、4年ぶりに復活しました。昼の時間帯でしたが、お酒も進み、展示会の場で当協会会員の交流の場を持つことの意味の深さを再認識しました。次回は、もっと盛大に行いたいと思います。



サロン

連載

SERIES